

畜産試験場試験・研究課題事後評価表

畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：鶏の飼養管理技術の改善

小課題名：鶏の排せつ物に関する利用性向上試験

細目課題名：

担当者名：奥田美杉

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	3 / 5	竹炭を飼料に添加できることは確認できたが、その結果鶏ふんがどのように利用できるかが必要である。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	3 / 5	炭化物の利用が注目されている中で、「竹炭を有効に活用する方法として飼料添加を試みたが、目立った効果を得るには至らなかった」と言う事実は成果として有用である。
3 研究の発展性	4 / 5	飼料添加による効果は確認できなかったが、鶏ふんあるいは堆肥材料への表面散布による臭気発生の抑制などの方法も考えられ、次の展開に期待する。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	鶏ふんの処理が問題となっている中、竹炭利用は課題として良いと考えられる。
総合評価	4 / 5	竹炭の飼料添加試験では、有効性が把握できなかったが、より現実的な畜ふんや堆肥材料表面への散布による臭気発生軽減効果、あるいは生竹粉体についての利用がさらなる展開を生むことになると考えられるので、今後の展開に期待する。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

本試験では竹炭の飼料添加による試験では、排せつ物への形状・性状の有利性は認められなかったが、排せつ物への直接散布等の利用方法について検討すべき課題が残った。

また、近年、生竹の種々の利用効果が認められるという報告があることから、今後生竹を含めた利活用試験を行う必要がある。

<様式6>

山梨県畜産試験場試験・研究課題事後評価表

山梨県畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：鶏の飼養管理技術の改善

小課題名：規格卵生産のための飼養管理技術の確立

細目課題名：

担当者名：奥田美杉

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	5 / 5	4年間の研究期間のなかで概ね計画どおり研究され目標も達成されている。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	5 / 5	生産者にとっても有用な成果が得られているが、今後は成果の普及が課題である。
3 研究の発展性	4 / 5	研究手法がある程度確立されており、今後の研究にも応用できる。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	卵の安定的生産の研究であり課題選定は妥当である。
総合評価	5 / 5	有用な研究成果が得られているが、今後はどのように生産者に向けた普及活動を行っていくかが課題である。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

農家での要望の高い飼育技術であり、飼料費の削減効果も期待できるので、畜産普及科と連携しながら農家の実情に合わせた指導を行って普及に努めていきたいと考えています。

山梨県畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：未利用資源の飼料化技術

小課題名：未利用素材の鶏飼料化技術の開発

細目課題名：

担当者名：松下浩一

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	5 / 5	パン屑、豆腐粕、きな粉等の利用方法が把握できたことで今後の利用方法の目安となる。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	4 / 5	今後、期待される未利用素材の量、質、収集方法の把握と飼料化に向け農家での実用検証が必要である。
3 研究の発展性	4 / 5	未利用資源の活用は、飼料の国内生産を含め、自給率向上のためさらに進める必要がある。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	未利用資源の活用、自給率の向上等時代に適応した課題であり妥当である。他業種との情報交換を上でさらに研究を進めて欲しい。
総合評価	4 / 5	未利用資源の利用は今後不可欠であり実用化に向けた取り組みが期待される。単味残さだけでなく残さの複合利用と混合割合を上げていくことも検討してほしい。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

未利用資源の利用は今後とも畜産を推進するうえで必要不可欠と考えます。今後は、さらに新しい未利用資源の発掘と農家での利用に向けた実証試験等の取り組みを行っていきたいと考えます。